◇まえがき◇

機器分析センターこの一年

機器分析センター長　飯石一明

機器分析センターが設置されて，３年が経過しました。本年度も理学部に間借りの状態でしたが，少しでも良いセンターになるように，運営委員会や機器運用部会の皆さんの御支援と利用者の皆さんの御協力のもとに努力してまいりました。ここに，この一年を振り返り機器分析センター報告第３号をお届けします。

４月１日にセンター長の発令を受け，もう２年センター長を務めることになりました。当センターは平成４年に発足しましたが，その時に発行しました機器分析センターの概要に，当面は建物新営と分析機器の導入の二つの目標を達成するよう努力したいと申しています。この目標に沿って２年間を勤め，センター報告第１号と２号において，それぞれの年度の状況をある程度詳しく報告してまいりました。このことは今後も継続したいと思っています。

４月２８日には建物新営の概算要求のための学長ヒアリングがありました。平成６年度には茨城大学と熊本大学の機器分析センターの建物が完成しています。これで，平成３年度までに設置された機器分析センターにはすべて建物が完成されたことになります。山口大学は平成４年度に機器分析センターが設置されていますことから，平成７年度に概算要求が認められることに，大きな期待を寄せているところです。

６月８日にはセンター建物設置計画について，機器運用部会（小委員会）と理学部共通機器委員会の合同会議を開き，これまでの計画をさらに詳しく検討しました。

７月２２日の運営委員会において，平成５年度の決算報告と平成６年度の予算や広報活動について審議をお願いしました。本年度は政権交代の関係で，予算の決定が遅れ心配しましたが，運営委員の皆様のご理解のもと予算案をご承認戴きまして，支障なくセンターを運営できましてホットしました。センターの予算は約１３００万円程度で，おおよそ半分が附属施設経費等，他の半分が特殊装置維持費となっています。各装置の責任者と相談しながら，利用者の皆さんに良いデータを出してもらえるように，予算の配分に気を配っています。ご意見やお気づきの点がございましたら，各学部の運営委員の先生，あるいは直接センター（内線337）にお知らせ願えれば幸いです。

１０月の管理委員会においては，建物新営に関しては，山口大学の地域共同研究開発センターの建物も完成間近ですし，全国の機器分析センターで建物が建設されていない大学では，山口大学は先頭にあることを申し上げ，全学的なご支援をお願い致しました。

１１月には国立学校施設整備長期計画ヒアリング（施設部長）がありました。当面は建物新営が念願ですが，長期計画としてはバランスの取れた大型機器の導入計画や増築，さらに利用者の便を図るためにスタッフの増員や事務部の充実も考える必要があると考えています。

２月と３月には，センターの繁岡助教授が，理学部に教授として迎えられることになったため，運営委員会や管理委員会がありました。繁岡先生には発足時からセンター充実のために尽力して戴きました。大変有難うございました。

３月の中旬には施設部において建物設置計画のヒアリングがありました。これはいつ内示があっても良いように，準備に万全を図るために行われたものです。主要機器に関係のある多くの先生方に御協力願いました。多くの皆さん方の御協力のもと，センター新営の機運が非常に高まっていると感じています。

平成４年度にセンターが設置されて以来，特別設備で”電子プローブマイクロアナライザ”や”動的構造解析装置”が導入され，研究成果が学会や学術雑誌に報告されていますが，本報告にも研究成果の一部を執筆して戴いております。また，表紙には理学部の永尾先生にお願いして，”電子プローブマイクロアナライザ”で得られた，鉱物の面分析画像を使用させて戴きました。本年度は，一般設備でオフセンター型極低温４軸回折装置が導入されました。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。